

# 童

2020年10月30日

リンゴ 梨 ブドウ 枝豆 お米 さつまいも 柿 と次々に秋の恵みを頂く子供達。新米の寿司屋風おにぎり注文給食は、新米の塩むすびが、葉っぱの上で輝いていました。食べた場所は、もみじヶ丘。昨年、せんぜもんさんの舞台となった場所です。その紅葉が色つき始めました。まもなく、大地の誇る紅葉の世界が広がります。

あつという間に秋の訪れ。子ども達は元気です！！ 雨でも風でもどんな天気でも歩きますそして働きます。稲刈りも脱穀の手伝いも、大人並みに働きます。この時期の風物詩 薪運びも働きます。「よく食べよく眠りよく働く」これが大地のモットーです。

まもなく 薪ストーブの煙突から煙があがります。あさっての子ども祭りの日は、2度近く of 寒さ。厳しくなるらしいです。流しそうめんどころではなく、暖かいうどんでしようか？ でも面白そう！！ この時期、ちょっと寒くなるので、もう冬仕様の洋服が登場します。毛糸の帽子に始まりダウンジャケットなど。でも、ちょっとお待ちください。この時期から早まると、冬本番では更に何を着るのでしょうか。早くからの準備や備えは、早産と同じです。特に子供は、大人よりも一枚少ないのが定説です。薄着薄着。寒さに強い身体を作るには、この時期をどう過ごすかにかかっています。何でも先を見越して、苦労しないように先回りして対策を練ったり練習をしたりすると、自立が遅れます。失敗からの学びがなくなります。つまり、自分で修正する気づきがなくなります。すなわち、自主自立が欠損します。

身体も同じです。自分自身で寒さを感じる前に、親が寒さを感じて、事前に着せてしまう対策。子供は、遊びに夢中になっていれば、つまりフローになって遊んでいけば精神が充実していれば、寒さを感じないのです。身体も燃えて、体温が上がるのです。

この時期、薄着でがんばれば、寒さに強い子ども、コロナやインフルエンザに耐えられる身体を作りましょう。それには、大人の薄着に対する勇気が問われるのです。半袖で頑張る子どもを見つけてください。元気いっぱい、気力が充実して溢れているはずです！！



## 【花は咲くとチェロ】

「楽しむのではなく、面白がることよ」大地の友の編集者様、さすがです！！ やってくれました！！、最高にヒットする巻頭の言葉です。感謝です。素晴らしい言葉をどこから見つけてきたのですか？ 巷では、何でも「楽しんでおいでよ」などの言葉が溢れています。が、「面白がっておいでよ」はなかなかありません。青ちゃんの人生も、まさに、楽しそうなものよりも面白そうなものに惹かれてきた傾向にあります。

合唱曲「花は咲く」もちろん曲は最高ですが、YouTube で見た布施明の横の、美人のバイオリストにめちゃくちゃ惚れました。ピアニストやバイオリストや楽器をおやりになる人は、どうして美人が多いのでしょうか。「地位が人を作る」以上に「音楽が美人を作る」という法則があるのでしょうか。凜とした世界、雰囲気、秩序とリズムとハーモニーが美しさを作る、生活も子供の世界も、やはり凜としたものがあれば美しいですね。そして オーケストラの人達の男性も女性も、やはり皆めちゃくちゃカッコいいし、美人揃い。惚れました。

オーケストラの人達は、きっと幼児の頃から、時にはいやいやながら厳しい先生について、指先などを小突かれながら、遊びたいことを犠牲にしてやってきたのだろうな、そして、庶民ではなくある程度、良い所の子供達がやってきたのだろうな などと思っていました。更に、両親もその道の人が多く、やはりある程度血筋がないとも思っていました。加えて、先生も指導者もプライドの塊で、ジョークなどもつてのほかの堅物だろうとも。

家作りもテニスコート作りも認定子ども園もテニスもスポーツも、技術とノウハウと情報と時間を費やせば、ある程度の努力でできました。大げさかもしれませんが、やる気になればある程度の期間で、大概のことは素人の暮らしレベルのことはできてきました。一朝一夕でできなかったことは、ピアノでした。これだけは、人の10倍の時間を費やしても、簡単には追いつきません。ほとんどのことは、努力すれば、標準よりも早く実現達成できたのに。還暦を過ぎての暮らしの中で、何か自分にとんでもない世界 課題を与えたい、サディスティックな課題、一朝一夕ではなく、日々の小さな努力でしか成し遂げられないこと・・・課題を与えたい・・・

そんな時、あの美人のバイオリストが浮かんできたのです。「俺 バイオリン習おうかな？」と妻に相談。ノンタン母さんは ああ見えてもかなりの面白もの好き、時には青ちゃん以上にお調子者なのです。「いいじゃない！ 面白そう！！」そう言えば、「俺 お話の勉強で、東京子ども図書館を受けてみようかな」とモーニングをガストで食べている時に思いついて相談。「それは面白い ぜひやって見たら」と妻は軽いノリ。調べたら明日が応募締め切り日、その日の夕方に応募理由を適当に書いて応募したら、何の間違いか！？ 受かってしまった。今回も同じ。「でも、チェロのほうが似合うかも」と妻。「チェロってどんな楽器 バイオリンのでかい奴？」そう言えば ゆう君が縦弾きのバイオリンを持っていたなあ。ネットで見ると めちゃくちゃカッコいい 面白そう！！

何も知らずに 幼稚園児の通うチェロ教室のドアを妻と一緒に叩きました。あの怖い堅物のプライドの塊の先生をイメージして恐る恐る行くと。いきなり、トランプ片手に手品が始まりました。「はあ？」あつけにとられていると、次にハンカチの色変え 続いて 一万円札がどんどん出てくる手品。ここでビビらずに青ちゃんも「俺もできます」と言って、親指を切る手品を披露。軽くあしらわれて、もっとすごい親指切を見せてくれました。更に、ピアノの方へ歩んで行かれたので、ようやくチェロのためにピアノで曲を紹介するのかなと思っていると、ピアノの上にあった新聞紙を取り上げ、びりびりに破いてそれを元に戻す手品 「あああれはよくある奴だな」と油断していると、次に なんと「白い鳩がぱたぱたと・・・」「2人とも沈黙」チェロ教室に来ただけ。その後、このハトはずっとピアノの上に居続け、最後までこの鳩が気になって気になって・・・。

やっと手品が終わり、ようやくチェロが始まると思いきや 次に何やらカードを引くと。曲の紹介かなと思いきや、小林一茶の俳句が登場。百人一首も一茶や芭蕉の俳句も、すべて覚えているらしく、引いたカードの番号の俳句をどんどん唱えていました。「面白い この先生最高！！」このチェロに決定！！ 「園長先生、どうかね 手品をやってみないかね 後継者を探しているんだが、仕事柄びつたりだと思ふよ」心の中で「俺、チェロ習いに来たんですけど」

2回目、きょうこちゃんやゆう君と一緒にレッスンの。幼稚園では想像ができないほど、美人でカッコいい。まさに「チェロは人を変える！凜としている」そして 青ちゃんが間違えると 2人は「クスッと」笑い、先生に注意される。

3回目 おなじみの幼児と3人でレッスン。目標は この2人に絞られる。早く追い抜いて、青ちゃんのプライドを

4回目、一人でレッスン。ドアを開けると、CD ラジカセから 芭蕉の俳句が流れ続けていた。やはり「面白い！！」